

2016年度 第3四半期 決算概要

2017年 2月2日
パナソニック株式会社

本日の内容

1. 発表のポイント
2. 2016年度 第3四半期 決算概要
3. 2016年度 年間業績見通し

発表のポイント

第3四半期実績

- 為替により減収となるも、車載電池の伸長等により、実質では増収
- 為替等により全体では減益となるも、車載・産業向け売上が伸長したインダストリアル事業や、収益性が改善したAV事業等では増益

年間見通し

- 足元の円安基調を受けて、年間業績見通しを上方修正

本日の内容

1. 発表のポイント
2. 2016年度 第3四半期 決算概要
3. 2016年度 年間業績見通し

2016年度 第3四半期 連結業績

(億円)

	IFRS(非監査)			米国会計基準		
	16年度3Q	15年度3Q	前年比 / 差	16年度3Q	15年度3Q	前年比 / 差
売上高	18,826	19,338	97% (103%)*1 ▲512	18,545	19,109	97% (103%)*1 ▲564
調整後営業利益 *2	1,076	1,230	88% ▲154	—	—	—
その他の損益	▲100	▲299	— +199	—	—	—
営業利益	976	931	105% +45	960	1,198	80% ▲238
営業外損益	▲2	16	— ▲18	▲174	▲294	— +120
税引前利益	974	947	103% +27	786	904	87% ▲118
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	640	482	133% +158	*3 555	*3 489	113% +66
フリーキャッシュフロー	338	450		285	384	
為替 レート	1USDドル	109円	122円			
	1ユーロ	118円	133円			
	1人民元	16.0円	18.9円			

*1 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

*2 IFRSにおいて、売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出した指標

*3 当社株主に帰属する当期純利益

2016年度 第3四半期(累計) 連結業績

(億円)

	IFRS(非監査)			米国会計基準		
	16年度 3Q累計	15年度 3Q累計	前年比 / 差	16年度 3Q累計	15年度 3Q累計	前年比 / 差
売上高	54,224	57,368	95% (102%)*1 ▲3,144	53,500	56,713	94% (101%)*1 ▲3,213
調整後営業利益 *2	2,716	3,345	81% ▲629	—	—	—
その他の損益	41	▲568	— +609	—	—	—
営業利益	2,757	2,777	99% ▲20	2,406	3,203	75% ▲797
営業外損益	28	▲7	— +35	▲88	▲658	— +570
税引前利益	2,785	2,770	101% +15	2,318	2,545	91% ▲227
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,975	1,658	119% +317	*3 1,754	*3 1,602	109% +152
フリーキャッシュフロー	▲1,949	218		▲1,985	153	
為替 レート	1USDドル	107円	122円			
	1ユーロ	118円	134円			
	1人民元	16.0円	19.3円			

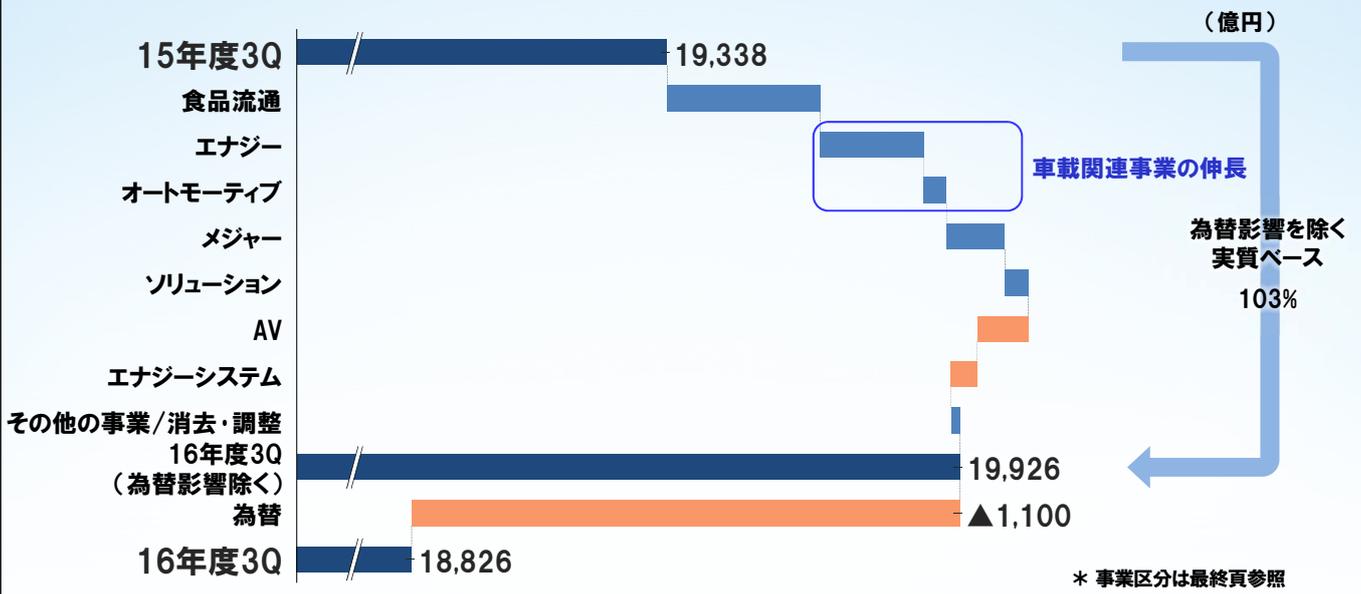
*1 為替の影響を除いた実質ベース(非監査)

*2 IFRSにおいて、売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出した指標

*3 当社株主に帰属する当期純利益

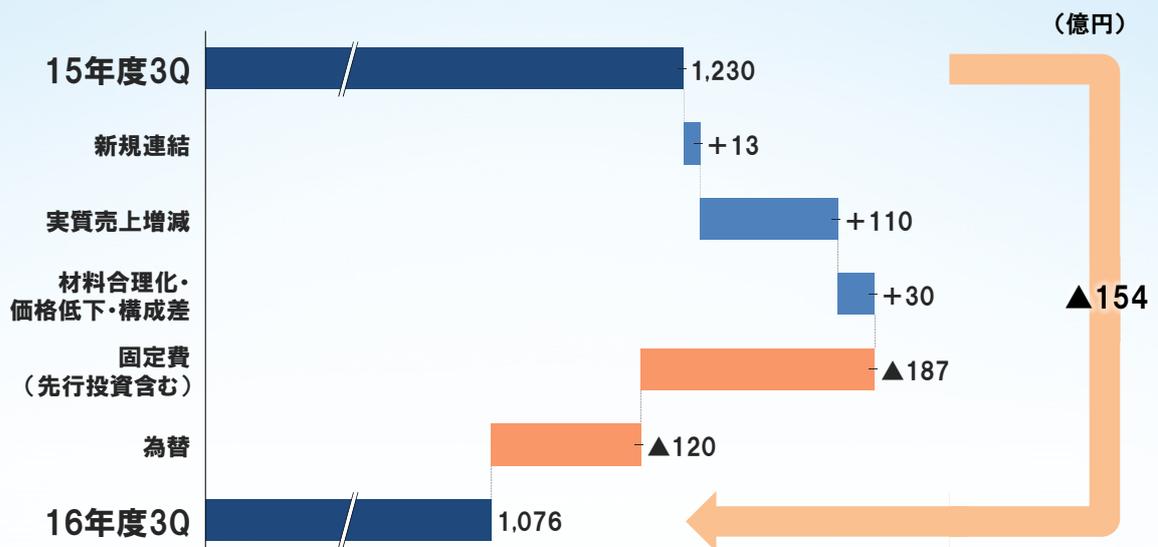
事業別 売上高増減

IFRS



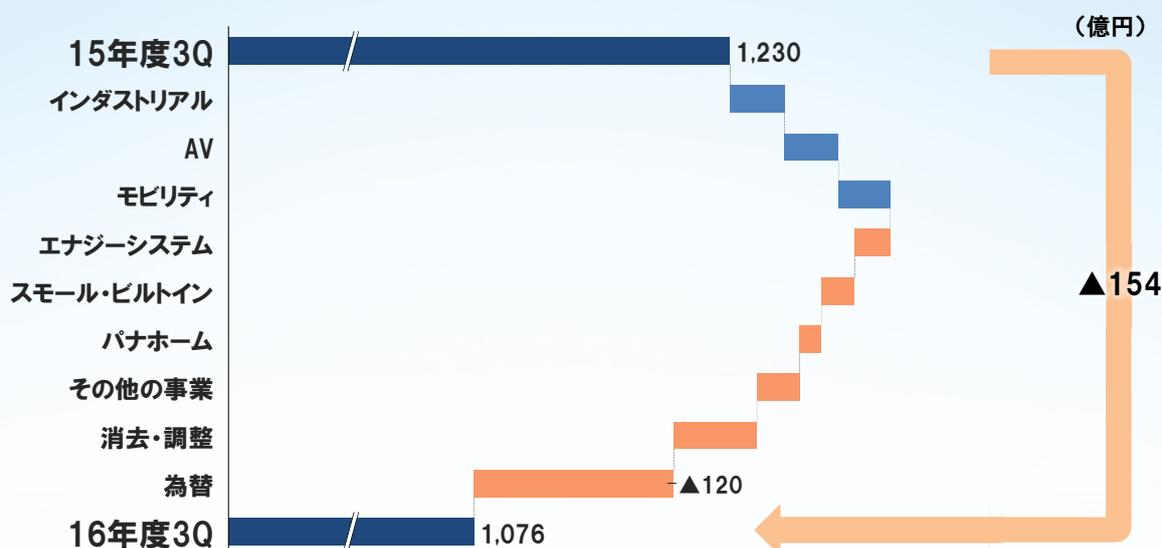
調整後営業利益増減分析

IFRS



事業別 調整後営業利益増減

IFRS



* 事業区分は最終頁参照

営業利益・当期純利益

(億円)

	IFRS(非監査)		米国会計基準	
	16年度3Q	前年差	16年度3Q	前年差
調整後営業利益	1,076	▲154	—	—
その他の損益	▲100	+199	—	—
営業利益	976	+45	960	▲238
営業外損益	▲2	▲18	▲174	+120
税引前利益	974	+27	786	▲118
法人税等	282	▲114	*1 191	*1 ▲169
当期純利益	692	+141	595	+51
非支配持分に帰属する当期純利益	52	▲17	40	▲15
親会社の所有者に帰属する当期純利益	640	+158	*2 555	+66

*1 持分法による投資利益を含む

*2 当社株主に帰属する当期純利益

セグメント別実績(第3四半期)

IFRS

(億円)

	2016年度3Q							
	売上高	前年差	調整後 営業利益	前年差	その他の 損益	前年差	セグメント 利益	前年差
アプライアンス	6,201	+94	310	+14	0	+44	310	+58
エコソリューションズ	3,928	▲140	283	+4	▲31	▲4	252	0
AVCネットワークス	2,591	▲256	188	▲21	▲30	▲20	158	▲41
オートモーティブ& インダストリアルシステムズ	6,525	▲241	237	▲80	▲33	+111	204	+31
その他	1,388	+92	7	▲24	▲37	+17	▲30	▲7
小計	20,633	▲451	1,025	▲107	▲131	+148	894	+41
消去・調整	▲1,807	▲61	51	▲47	31	+51	82	+4
連結決算(IFRS)	18,826	▲512	1,076	▲154	▲100	+199	976	+45
アプライアンス(製販連結)	6,883	▲49	314	+18	▲1	+44	313	+62

* 非監査

セグメント別実績(第3四半期(累計))

IFRS

(億円)

	2016年度3Q累計							
	売上高	前年差	調整後 営業利益	前年差	その他の 損益	前年差	セグメント 利益	前年差
アプライアンス	18,052	+167	1,040	+260	▲15	+84	1,025	+344
エコソリューションズ	11,187	▲510	478	▲159	▲17	+33	461	▲126
AVCネットワークス	7,515	▲1,093	446	▲134	▲31	+10	415	▲124
オートモーティブ& インダストリアルシステムズ	19,029	▲1,603	558	▲541	297	+507	855	▲34
その他	4,003	▲20	17	▲25	▲41	▲30	▲24	▲55
小計	59,786	▲3,059	2,539	▲599	193	+604	2,732	+5
消去・調整	▲5,562	▲85	177	▲30	▲152	+5	25	▲25
連結決算(IFRS)	54,224	▲3,144	2,716	▲629	41	+609	2,757	▲20
アプライアンス(製販連結)	19,683	▲3	1,014	+278	▲16	+83	998	+361

* 非監査

セグメント情報

アプライアンス(製販連結)

IFRS

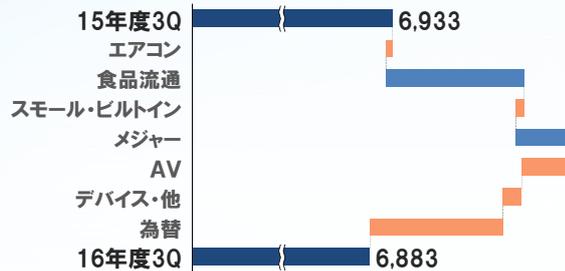
<概要>

(億円)

	売上高	調整後 営業利益	セグメント 利益
16年度3Q	6,883	314 4.6%	313 4.6%
前年比/差	99% *(104%)	+18	+62

*為替影響を除く実質ベース

<事業別売上高増減>



<売上>

*為替影響を除く実質ベース

エアコン	・アジア、欧州での販売減により、減収
食品流通	・ハスマン社の連結子会社化により、大きく増収
スモール・ビルトイン	・インバウンド需要減により日本で苦戦し、減収
メジャー	・日本及びアジアで、洗濯機、冷蔵庫が堅調に推移し、増収
AV	・日本での4Kテレビは好調であるもの、欧州販売苦戦で減収

<セグメント利益>

メジャー等の増販益、白物家電や4Kテレビ等の高付加価値商品シフトによる収益性の改善、新規連結効果等により増益

セグメント情報

エコソリューションズ

IFRS

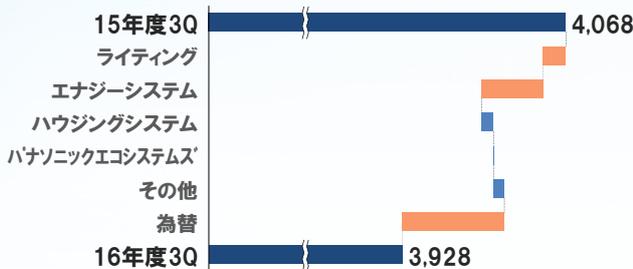
<概要>

(億円)

	売上高	調整後 営業利益	セグメント 利益
16年度3Q	3,928	283 7.2%	252 6.4%
前年比/差	97% *(99%)	+4	0

*為替影響を除く実質ベース

<事業別売上高増減>



<売上>

*為替影響を除く実質ベース

ライティング	・光源事業、欧米デバイス事業が減販
エネルギーシステム	・海外が堅調な配線器具等は増収も、国内市場縮小に伴いソーラー事業が大きく減販し、全体では減収
ハウジングシステム	・水廻り新商品効果や、外装事業の九州震災復興需要などにより増収
パナソニックエコシステムズ	・中国(空気清浄機/熱交換気ユニット/浴室換気乾燥機)、アジア(除湿機)が牽引
その他	・介護サービス拠点数の拡大に伴うエイジフリー事業等の伸長により増収

<セグメント利益>

ソーラー等の減益を、ライティングの収益性改善や、ハウジングの増販等でカバーし、ほぼ前年並み

セグメント情報

AVCネットワークス

IFRS

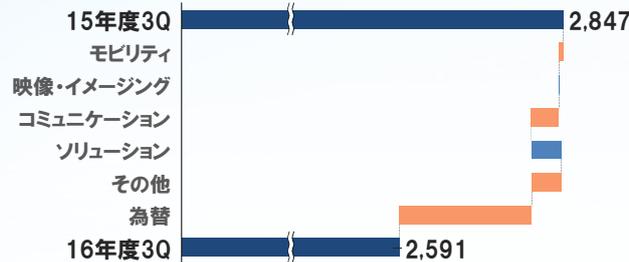
<概要>

(億円)

	売上高	調整後 営業利益	セグメント 利益
16年度3Q	2,591	188 7.2%	158 6.1%
前年比/差	91% *(98%)	▲21	▲41

*為替影響を除く実質ベース

<事業別売上高増減>



<売上>

*為替影響を除く実質ベース

モビリティ	・ITプロダクツ事業で日米大型件名が牽引するも、ストレージ事業の販売減により、全体で減収
映像・イメージング	・高輝度プロジェクターやDSC新製品が牽引し増収となるも、熊本地震影響により、前年並み
コミュニケーション	・市場縮小に伴い、アジアでのアナログPBXや固定電話の販売苦戦で減収 ・北米での固定電話は増販
ソリューション	・公共件名等の販売が伸長した国内ソリューション事業が好調により、増収

<セグメント利益>

増販や高付加価値商品シフトによる収益性改善により、実質増益も、為替の影響が大きく、全体では減益

セグメント情報

オートモーティブ&インダストリアルシステムズ

IFRS

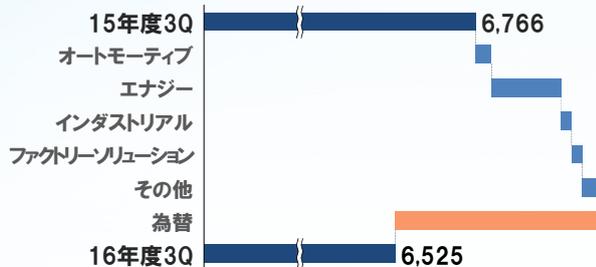
<概要>

(億円)

	売上高	調整後 営業利益	セグメント 利益
16年度3Q	6,525	237 3.6%	204 3.1%
前年比/差	96% *(105%)	▲80	+31

*為替影響を除く実質ベース

<事業別売上高増減>



<売上>

*為替影響を除く実質ベース

オートモーティブ	・車載カメラ、センサー、スイッチなど、電装品が堅調に推移し、増収
エナジー	・車載向けリチウムイオン電池が大幅に伸長し、増収
インダストリアル	・事業縮小・終息の影響あるも、車載リレー、電子材料など車載・産業向けが伸長し増収
ファクトリーソリューション	・中国ローカルスマートフォンメーカー向け実装機が堅調に推移し、増収

<セグメント利益>

調整後営業利益は、車載・産業向け増販益等に対し、為替影響が大きく、全体では減益
セグメント利益は、その他の損益の改善により、全体で増益

（億円）

	2016年度3Q							
	売上高	前年差	調整後 営業利益	前年差	その他の 損益	前年差	事業部 利益 ^{*3}	前年差
エアコン ^{*1}	902	▲63	36	+14	9	+17	45	+31
ライティング	854	▲40	92	+5	▲6	+14	86	+19
ハウジングシステム	985	+8	61	+10	5	+10	66	+20
インフォテインメントシステム	1,251	▲113	60	▲2	1	0	61	▲2
二次電池 ^{*2}	1,002	+131	▲24	▲18	▲25	+101	▲49	+83
パナホーム	845	+43	13	▲13	▲1	+2	12	▲11
テレビ ^{*1}	960	▲186	26	+18	▲3	+25	23	+43

*1: 販売部門を含む製販連結

*2: 二次電池事業部+テスラBU

*3: 「事業部利益」はIFRSの営業利益を表しています。

本日の内容

1. 発表のポイント

2. 2016年度 第3四半期 決算概要

3. 2016年度 年間業績見通し

2016年度 年間業績見通しの修正

IFRS

(億円)

	見通し (2017年2月2日時点)	見通し (2016年10月31日時点)	修正額
売上高	73,500	72,000	+1,500
調整後営業利益	3,400	3,200	+200
その他の損益	▲750	▲750	-
営業利益	2,650	2,450	+200
営業外損益	▲50	▲50	-
税引前利益	2,600	2,400	+200
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,300	1,200	+100
戦略投資を除く フリーキャッシュフロー	1,500以上	1,500以上	-

前年実績 (非監査)	前年差
76,263	▲2,763
4,132	▲732
▲1,829	+1,079
2,303	+347
▲20	▲30
2,283	+317
1,596	▲296
2,273	-

為替 レート	1USドル	108円	103円	+5円
	1ユーロ	119円	114円	+5円
	1人民元	15.9円	15.5円	+0.4円

120円	▲12円
133円	▲14円
18.9円	▲3.0円

セグメント別の見通しの修正

IFRS

(億円)

	2016年度見通し (2017年2月2日時点)							
	売上高	修正額	調整後 営業利益	修正額	その他の 損益	修正額	営業利益	修正額
アプライアンス	23,000	+200	1,100	-	▲70	-	1,030	-
エコソリューションズ	15,800	+100	840	-	▲50	-	790	-
AVCネットワークス	10,750	+300	650	+50	▲100	-	550	+50
オートモーティブ & インダストリアルシステムズ	25,200	+500	880	+120	170	-	1,050	+120
その他	6,400	+100	120	-	▲70	-	50	-
消去・調整	▲7,650	+300	▲190	+30	▲630	-	▲820	+30
連結決算	73,500	+1,500	3,400	+200	▲750	-	2,650	+200
アプライアンス(製販連結)	25,300	+300	1,100	-	▲70	-	1,030	-

Panasonic

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。平成29年3月期の連結業績予想は国際財務報告基準(IFRS)に基づき作成しています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これから将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- 米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- 多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
- 資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- 急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
- 他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
- パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向(BtoB(企業向け)分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品需要の減少等の可能性を含む)
- 多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
- 製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- 第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- 諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等(直接・間接を問わない)
- パナソニックグループが保有する有価証券およびその他資産の時価や有形固定資産、のれんなどの長期性資産および繰延税金資産等の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- ネットワークを介した不正アクセス等により、当社システムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
- 地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

(参考)

事業部一覧

アプライアンス

エアコンカンパニー
 テレビ事業部
 ホームエンターテインメント事業部
 冷蔵庫事業部
 ランドリー・クリーナー事業部
 キッチンアプライアンス事業部
 ビューティ・リビング事業部
 パナソニック サイクルテック(株)
 冷熱空調デバイス事業部
 スマートエネルギーシステム事業部
 コールドチェーン事業部
 Hussmann Corporation

AVCネットワークス

イメージングネットワーク事業部
 ストレージ事業部
 ビジュアルシステム事業部
 Panasonic Avionics Corporation
 ITプロダクツ事業部
 セキュリティシステム事業部
 コミュニケーションプロダクツ事業部
 オフィスプロダクツ事業部
 システムソリューションズジャパンカンパニー

オートモーティブ & インダストリアルシステムズ

インフォテインメントシステム事業部
 車載エレクトロニクス事業部
 二次電池事業部
 エナジーデバイス事業部
 メカトロニクス事業部
 パナソニック セミコンダクターソリューションズ(株)
 デバイスソリューション事業部
 電子材料事業部
 パナソニック液晶ディスプレイ(株)
 スマートファクトリーソリューション事業部

エコソリューションズ

ラइटニング事業部
 エナジーシステム事業部
 ハウジングシステム事業部
 パナソニック エコシステムズ(株)

その他

パナホーム(株)

2017年2月2日時点

(参考)

2016年度 売上開示事業の構成

アプライアンス

・エアコン事業 : エアコンカンパニー
 ・食品流通事業 : コールドチェーン事業部、Hussmann Corporation
 ・スモール・ビルトイン事業 : キッチンアプライアンス事業部、ビューティ・リビング事業部
 ・メジャー事業 : 冷蔵庫事業部、ランドリー・クリーナー事業部
 ・AV事業 : テレビ事業部、ホームエンターテインメント事業部

エコソリューションズ^{*1}

・ラइटニング事業部
 ・エナジーシステム事業部
 ・ハウジングシステム事業部
 ・パナソニック エコシステムズ(株)

AVCネットワークス

・モビリティ事業 : ITプロダクツ事業部、ストレージ事業部
 ・映像・イメージング事業 : イメージングネットワーク事業部、ビジュアルシステム事業部、セキュリティシステム事業部
 ・コミュニケーション事業 : コミュニケーションプロダクツ事業部、オフィスプロダクツ事業部
 ・ソリューション事業 : Panasonic Avionics Corporation、国内/海外ソリューション

オートモーティブ & インダストリアルシステムズ

・オートモーティブ事業 : インフォテインメントシステム事業部、車載エレクトロニクス事業部
 ・エナジー事業 : 二次電池事業部、エナジーデバイス事業部
 ・インダストリアル事業 : メカトロニクス事業部、パナソニック セミコンダクターソリューションズ(株)、デバイスソリューション事業部、電子材料事業部、パナソニック液晶ディスプレイ(株)
 ・ファクトリーソリューション事業 : スマートファクトリーソリューション事業部

*1 エコソリューションズは、4つの事業部がそれぞれ売上開示事業